

# 初級日本語教科書における「謙譲語の2分類」 「尊敬語の使い分け」の扱われ方

—「敬語の指針」(文化庁, 2007年)をどのように反映させているのか—

## Honorific Expressions and Humble Expressions in Japanese Language Textbooks for Beginners

—Focusing on the Distinction Proposed in the “Guidelines for Honorific Expressions 2007.”—

菅生 早千江  
Sachie SUGO

*Keywords* : Honorific Expressions, Level of Respectfulness, Humble Expressions,  
Extra Modest Expressions, Textbook Dialogues

キーワード : 尊敬語、敬意のレベル、謙譲語Ⅰ、謙譲語Ⅱ、教科書会話

### 1. はじめに

敬語とは、「人が言葉を用いて自らの意思や感情を人に伝える際に、単にその内容を表現するのではなく、相手や周囲の人と、自らとの人間関係・社会関係についての気持ちの在り方を表現するというものである。気持ちの在り方とは、たとえば、立場や役割の違い、年齢や経験の違いなどに基づく「敬い」や「へりくだり」などの気持ちである」と定義されている(文化庁, 2007: 5)。

日本語学習者は、多くの初級教科書において敬語を終盤の文法項目として学習する。しかしながら、教員は中級以上の学習者を指導していても、しばしば誤った敬語の使い方を見聞きする。先日は、オンライン発表をする留学生が聞き手に対して、発表資料の見え方を確認する意図で「ご覧になれますか」ではなく「お見えになりますか」と呼びかけている場に遭遇した。川口(2009)は学習者の作文に見られた「私は毎日川へ行ってお泳ぎしております」という例を紹介し、謙譲語「お/ご~する」の使用場面に関する学習者の認識の誤りを指摘している。教師としては、敬語は授業でもまとまった時間を割いて取り上げるが、改善や工夫の余地がないか考えさせられる。

文化庁文化審議会は2007年2月、「敬語の指針」を発表した。この中で、従来「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」の3種類に分類されていた敬語は「尊敬語」「謙譲語Ⅰ」「謙譲語Ⅱ(丁寧語)」「丁寧語」「美化語」の5つに再分類された。従来の国語教育で定着していた敬語の3分類

を、5分類に細分化したことは、新聞やニュースでも数多く取り上げられた。朝日新聞（2007年2月3日）は、「敬語の新しい5分類」として、表1のように例示するとともに、謙譲語をⅠとⅡに分けたことについて、支持する意見と、学校教育において難解であると危惧する声の両方を紹介している。

表1 「敬語の指針」敬語の5分類に関する説明

（朝日新聞2007年2月3日「敬語5分類、影響は？文化審議会「指針」より）

| 従来の分類 | 敬語の新しい5分類 |                                    |
|-------|-----------|------------------------------------|
|       | 名称        | 説明と例                               |
| 尊敬語   | 尊敬語       | (相手を立てて述べる) なさる、読まれる、ご出席           |
| 謙譲語   | 謙譲語Ⅰ      | (自分から相手への行為について相手を立てて述べる) 伺う、お届けする |
|       | 謙譲語Ⅱ      | (自分の行為を相手に丁寧に述べる) (丁寧語) 参る、申す、拙著   |
| 丁寧語   | 丁寧語       | (相手に丁寧に述べる) です、ます、ございます            |
|       | 美化語       | (物事を美化して述べる) お酒、お料理                |

従来の謙譲語がⅠとⅡに分類されたことが、その是非を中心に大きく取り上げられたことに対し、従来の「丁寧語」が「丁寧語」と「美化語」に分けられ、「お酒」「お料理」などは後者に属するとされたことは、理解が容易であるためか、ほとんど話題にならなかった。また、尊敬語は「いらっしゃる」のように特別な形があるもの、「お話になる」「ご出席になる」のように語頭に「お・ご」を、動詞の語幹に「になる」を付加した形、および、「読まれる」のように「(ら)れる」と受身と同じ活用の形をとるものの3種が含まれるとされ、従来の形を踏襲した。尊敬語についても、新聞等では注目されることはなかった。

しかし、尊敬語のうち「(ら)れる」が従来通り尊敬語と扱われたことについて、一部の研究者から疑問が呈された(新田町, 2018、ほか)。「(ら)れる」について日本語学では「敬意を表す度合いが軽い」と説明されており(菊池, 1997ほか)、「受身」と紛れることの違和感も指摘されている(井上, 2017、野口, 2004)。井上(2017: 35)は、「(ら)れる敬語は東日本では使いにくい」としたうえで、「行かれますか」には、スラングとしての「イカレル」を連想することへの違和感を、また「お酒を飲まれますか」には、「お酒に飲まれる」の別の意味の連想から「飲まれないようにしています」と返したくとなると述べている。

「(ら)れる」が従来通り尊敬語として残った理由について、「敬語の指針」では、活用の形が「可能」「受身」「自発」と同様で簡便であるからと説明されている。また、「(ら)れる」が、敬意を表す度合いが軽いことをその特性として、より高く扱う対象に対する尊敬語との使い分けを行い、人間関係の多様性を表現するのに適切であるとも考えられている。

日本語教育では、かつて形容詞の過去形について、「～しゅうございました」から「～かったです」を指導の規範として変更を加えたように、国語教育の指針に沿う形で指導する文法項

目の細部を修正してきた。そうであるなら、「敬語の指針」は日本語教育の教材にも反映されているのだろうか。

本研究では、「敬語の指針」が発表された2007年2月以降に刊行された初級教科書において、「謙讓語の2分類」が指導に取り入れられているか、および、尊敬語の「特別形」・「お～なる」および「(ら)れる」の敬意のレベルによる使い分けが反映されているかを調査する。後者については、敬意のレベルを比較するために、蒲谷・川口・坂本(1998)の枠組を用いることとする。

## 2. 先行研究

本節ではまず、「敬語の指針」発表後に採用された国語教科書を検証した研究を紹介する。つぎに、日本語初級教科書における敬語に着目した研究を紹介する。

### 2. 1 国語教科書における「敬語の指針」後の敬語の扱われ方

#### 2. 1. 1 「謙讓語の2分類」の議論

「謙讓語の2分類」の区別自体は、「指針」ではじめて提唱される新規なものというわけではない。「申す」「いたす」「まいる」「おる」を、「何う」「拝見する」等と異なる分類と扱うことは、日本語学研究では70年代から指摘されていること(川口, 2009)であった。しかし、小中学校での国語教育においては区別されないまま「謙讓語」の一つのくくりとして指導されてきた。

「敬語の指針」を受け、義務教育における国語教育、そして大学における日本語表現教育現場で、教科書に「指針」が反映されているかどうかを検証した研究が、いくつか発表されている。

永田(2019)は、中学校2年生および3年生の現行の教科書を分析することによって、敬語の取り扱いを考察している。平成31年度採用版の5冊の教科書、それぞれ2年生、3年生の10冊を調査した。その結果、「尊敬語」「謙讓語」は、定義の文言のみ「指針」に倣って改定していることが明らかになった。また一部の教科書では、「美化語」を敬語の分類の1つとするものが見受けられたが、「謙讓語の2分類」については、すべての教科書において取り上げていないことを報告している。

野呂(2016)は、「敬語の指針」以降に刊行された、大学で使用される日本語表現教科書10冊を調査し、「敬語の指針」が提唱した「謙讓語ⅠおよびⅡの区別」を指導に含める教科書が、10冊のうち4冊あったことを報告した。

以上から、義務教育の国語教育における「謙讓語の2分類」の扱いは、まだ「指針」に沿う形での改定はされておらず、一方で大学における日本語表現教育の教材は、一部で改訂が進んでいることが明らかになった。

## 2. 1. 2 「(ら)れる」敬語の議論

「(ら)れる」敬語については、敬意を表す度合いが軽いことが指摘され（菊池, 1997ほか）、尊敬語と定義することの是非が議論されている（新田林, 2019ほか）。にもかかわらず「(ら)れる」敬語は文化庁文化審議会の前身である部会でも長年支持されてきた。その理由について郡（2008）は、敬語を単純化し身分的な意識を排除しようとした、1950年代の思想がうかがえると解釈している。

義務教育における国語教科書での「(ら)れる」敬語の扱いは、「敬語の指針」において従来からの改定はなかったため、これまでと異なるところはない（永田, 2019）。一方で、大学における日本語表現教科書10冊を概観した野呂（2016）は、「(ら)れる」敬語については以下の2つの基準があるとしている。

- ・ 尊敬の助動詞「(ら)れる」は、他の表現に比べて敬意が低いいため、上司や先生などに用いるときには注意が必要である。
- ・ 尊敬の助動詞「(ら)れる」は、受身や可能の助動詞と同じ形式であるため、解釈があいまいになることもある。

しかし野呂（2016）は、このすべての基準を網羅した日本語指定教科書はなかったことを報告している。

以上から、「(ら)れる」敬語は、義務教育においては尊敬語として指導されており、大学においては授業担当者の裁量に任されているという状況がうかがえる。

## 2. 2 日本語教科書における敬語の扱われ方

日本語教科書において、敬語をどのように扱うかは、初級総合教科書が何種類か刊行された80年代後半から検討されてきた。川口（1986）は、当時刊行されていた『日本語初歩』ほか3種の教科書を対象とし、学習項目としての提出順と、それに対する解説に着目し問題提起を行っている。川口（1986）は、敬語が終盤の特定の課に集中して提出され、それ以前に全く敬語を提出しないのはいかにも不自然であること、一方で、その課より前に敬語を提出している教科書では、提出時の解説が不十分であるとの指摘をしている。

渡邊（1994）もまた、川口（1986）とは異なる教科書を取り上げ、提出順と解説を調査した。その結果、川口（1986）が提起した問題点が他の教科書でも見られること、また、解説は“polite”の表現を多用しているものの、不十分である点を指摘している。渡邊（1994）の分析対象とした教科書のうちの1種、『文化初級日本語』では「(ら)れる敬語」が扱われていないことが、同研究より見て取れる。

熊井（1986）は、『初級日本語』（東京外国語大学）における敬語を取り上げ、敬語を最終盤の指導項目とするよりも、敬語的要素を分散させ、早い段階から敬語のメカニズムに慣れさせることを提案している。加えて、いわゆる「謙讓語」の扱いとして、「いたす、参る、申す、

存ずる」など一般的に「ます」を伴って使われ、聞き手に対する配慮なしには使えない語を「丁寧語」と分類し指導することを提案した。熊井（1986）の分類は、「敬語の指針」における「謙讓語Ⅱ」の区別と重なるものである。

しかしながら、初級日本語教科書の敬語に着目した研究は、20年以上前までの研究は散見するが、「敬語の指針」発表後に、日本語教科書がどのように見直しを図っていったのかを取り上げた研究は、管見の限りにおいて見当たらない。

### 3. 研究課題

「敬語の指針」（2007：2）は「はじめに」において、「様々な社会生活での実際の敬語使用のためには、それぞれの目的に応じた敬語の「よりどころ」が必要となる」と述べたうえで、現代の多様な社会集団や分野を念頭に置き、「敬語の指針」が「よりどころ」の基盤、すなわち、〈よりどころのよりどころ〉として、基本的な指針として活用されることを期待すると述べている。

大学における日本語表現教育においては、すでに取り入れられているものもある。それでは、日本語非母語話者に対する日本語教育においてはどうかであろうか。そこで「敬語の指針」が日本語教育の教材にも反映されているかを調査することを目的とし、以下の研究課題を設けた。

1. 「敬語の指針」発表後に改訂・刊行された初級教科書において、「謙讓語Ⅰ」と「謙讓語Ⅱ」の分類はどのように扱われているか。
2. 「敬語の指針」発表後に改訂・刊行された初級教科書において、尊敬語の「特定形」および「お～なる」と、「(ら)れる」の敬意のレベルの異なりは、どのように扱われているか。

### 4. 研究方法

#### 4.1 分析対象の教科書

はじめに、「敬語の指針」発表後に改定・刊行された初級教科書として、以下の4種の教科書を選定した。

- (1) 『みんなの日本語初級Ⅱ』第2版（スリーエーネットワーク, 2013）（以下『みんなⅡ』）
- (2) *GENKI: An Integrated Course in Elementary Japanese II* Revised 2nd. Ed. (坂野ほか, 2011)（以下『げんきⅡ』）
- (3) *Japanese for Busy People III* Revised 3rd. Ed. (国際日本語普及協会, 2007)（以下『JBPⅢ』）
- (4) 『できる日本語 初中級』（できる日本語教材開発プロジェクト, 2012）（以下『できる 初中』）

教科書の選定には、2007年2月以降に改訂・刊行されているという条件のほかに、都内の日本語教育書籍専門店の「販売部数上位の日本語初級教科書である」という情報も参考にした。(1)～(3)は、文法構造シラバスに基づいた教科書で、初版刊行以降、現在に至るまで一定の評価を得ており、それぞれ、2013年、2011年、2007年9月に改定されている。(4)は、達成したい行動目標 (Can-Do Statement) に沿って学習する文法を配列する、Can-Doシラバスに基づく教科書で、文法構造シラバスとは異なる文法提出順となっている。教科書の名称は「初中級」だが、学習項目を総合的に検討すると、(1)～(3)とほぼ同レベルと考えられたため、対象に含めた。

なお、選定条件に照らして、(4)と同じCan-Doシラバスに基づく『まるごと 日本のことばと文化・初中級』(国際交流基金, 2015)も確認したが、(1)～(4)の教科書と同レベルでありながら、敬語は学習項目に含まれてはいなかったため、対象から外した。

(1)～(4)は、それぞれの「教師用指導書」も参考にし、『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版 教え方の手引き』(スリーエーネットワーク, 2016) (以下『手引き』)の導入例は分析対象とした。

#### 4.2 分析の枠組みおよび分析方法

研究課題1・謙讓語ⅠおよびⅡの扱いについては、分析対象教科書における、会話例、文法説明および教師用指導書の指示に着目し、記述することとした。

研究課題2・敬意レベルの異なりの検証については、蒲谷・川口・坂本(1998)の「敬意表現を決める要素およびレベルの度合い」に着目した。同研究では、「表現主体」は、自分と相手との相対的な人間関係について、社会的・文化的な「立場・役割」の持つ意味を考慮しつつ、「相手」を上下の軸に位置づけて認識すると述べている。さらには、その位置づけを【+2】～【-2】までの5段階で表すこととし、基本的に「敬語表現」は【0】(ゼロ)以上の場合に成立する、としている。この段階を図式化したのが表2である。そこで、4種の教科書において「尊敬語」を導入する課における、本文会話、導入例、および文法説明に例示されている会話の「表現主体」「相手」「場の改まり・くだけ」について、どのレベルの設定であるかを記述した。

表2 敬語表現を決める要素および「レベル」の度合い

| 敬語表現を決める要素                       | 構成する要素の例 と 「レベル」の度合い            |                        |                               |   |                            |
|----------------------------------|---------------------------------|------------------------|-------------------------------|---|----------------------------|
|                                  | 【+2】                            | 【+1】                   | 【0】                           | 【-1】                                      | 【-2】                       |
|                                  | +                               |                        | 0                             | -   |                            |
| 表現の相手<br>(=誰に?)                  | 年齢差のある<br>教師・上司                 | あまり年齢差<br>のない教師・<br>上司 | あまり親しくない同<br>年輩、関わりのない<br>初対面 | 親しい同年<br>輩、後輩・部<br>下、家族                   | きわめて親し<br>い友人、親し<br>い後輩、部下 |
| 話題の人物                            | 相手の側に属する話題の人物、自分と相手の両方が属する話題の人物 |                        | 自分、相手、両者とも属さない(関係ない)話題の人物     | 自分の側に属する話題の人物                             |                            |
| 表現の場<br>改まり・くだけ                  | 式典、講演会                          | 会議、講義                  | 通常の世界生活                       | 喫茶店、家庭                                    | 酒場での内輪<br>の会合              |
| 行動展開                             | 依頼                              |                        |                               | 指示・命令                                     |                            |
| 題材・内容<br>「題材」が、相手や場<br>にとって好ましいか | 相手に関わる好ましい話題：<br>例) 合格、就職、結婚    |                        |                               | 相手に関わる好ましくない話題：<br>例) 仕事に関わる事件、<br>スキャンダル |                            |

蒲谷・川口・坂本(1998:5-42)「敬語表現を考えるための枠組み」(抜粋)

## 5. 結果

### 5.1 4種の教科書における「謙讓語」および「尊敬語」の導入課

はじめに、4種の教科書における、「謙讓語」および「尊敬語」の該当用法の導入課について述べる。『みんなⅡ』では、50課で構成されている教科書の最後の2つの課を用いて、「尊敬語」はすべての用法を49課で、「謙讓語」はⅠ、Ⅱとも50課で導入している。『げんきⅡ』では「尊敬語」は「特定形」および「お～なる」のみ19課で導入するが、「(ら)れる」の用法は取り上げられていない。『JBPⅢ』では、「謙讓語」Ⅰ、Ⅱおよび「尊敬語」の「特定形」および「お～なる」を同一の課で導入しているが、「(ら)れる」はそのあとに導入している。

Can-Doシラバスに基づく『できる 初中』では、「尊敬語」「謙讓語」Ⅰとも主たる指導項目として扱うのは7課であるが、その他の課では「～ていただけませんか」「お/ご～ください」を導入している。「謙讓語」Ⅱについては1課で「(名前)と申します」「(国から)参りました」のみ表現として導入している。以上を表3にまとめる。

表3 対象教科書における「謙讓語」「尊敬語」を学習項目として導入する課

|     |          | 『みんなⅡ』 | 『げんきⅡ』 | 『JBPⅢ』 | 『できる 初中』    |
|-----|----------|--------|--------|--------|-------------|
| 謙讓語 | 謙讓語Ⅰ     | 50課    | 20課    | 10課    | 5課、7課、8課    |
|     | 謙讓語Ⅱ     | 50課    | 20課    | 10課    | 1課          |
| 尊敬語 | 特定形・お～なる | 49課    | 19課    | 10課    | 1課、7課、8課、9課 |
|     | (ら)れる    | 49課    | 扱いなし   | 11課    | 7課          |

## 5.2 「謙譲語Ⅰ」および「謙譲語Ⅱ」の扱い

本節では、4種の教科書の学習項目として導入する課において、会話例、取り上げられた語彙とともに、文法解説・指導上の注意に着目して記述する。その結果、3種の教科書において「謙譲語Ⅱ」（以下「Ⅱ」）に属する「参る・いたす・おる・申す」は「謙譲語Ⅰ」（以下「Ⅰ」）と異なるものと扱われていた。「Ⅰ」および「Ⅱ」に属する動詞に教科書独自の別の名称をつけたり、文法説明や注釈を付記したりするなどして、明示的に区別していた。一方で、『できる 初中』では明示的な区別を一切していなかった。

### 5.2.1 『みんなの日本語Ⅱ』 50課

『みんなⅡ』における謙譲語ⅠおよびⅡの扱いについて、表4に示す。指導手順では、はじめに「Ⅰ」から導入する例を提示している。『手引き』では、教室の場面で、生徒が教師に対して「荷物をお持ちする」「3時に伺う」等の発話を導く。「Ⅱ」についての導入例は、外国人社員が取引先を訪問し、初対面の挨拶で「ミラーと申します。アメリカから参りました」と挨拶するところである。『みんな』の『手引き』では、さらに、「Ⅰ」を「よく小説をお読みする」のように自身にすることに使わないこと、「Ⅱ」は定型表現として指導することを留意点としている（p.207）。

表4 みんなの日本語Ⅱにおける謙譲語ⅠおよびⅡの扱い

| 提示場面（50課 ◆：本文会話/●：『手引き』・練習）  | 謙譲語の種類  |
|--|---------|
| ●T：先生はたくさん荷物を持っています。とても重そうです。<br>先生に言います。「先生、荷物を持ちます。」いいですか。<br>S：いいえ、先生、荷物を…<br>T：丁寧な言い方があります。「荷物をお持ちします」   | Ⅰお（ご）する |
| ●T：ここは会社です。お客さんから電話がありました。<br>A：資料を送ってください。<br>B：はい。今日お送りします。<br>（送りますではありません。「お送りします」です。丁寧です。   |         |
| ●T：ミラーさんはきのう部長の展覧会に行きました。きょう、部長に会いました。<br>ミラー：部長、展覧会のチケットありがとうございました。<br>部長の絵を拝見しました。すばらしかったです。<br>部長：ありがとう。<br>ミラー：会場で、部長の奥様にお目にかかりました。きれいな方ですね。<br>部長：ありがとう。 | Ⅰ特定形    |
| ●T：Sさん、明日の午後、うちでパーティーをします。<br>3時に来てください。<br>S：ありがとうございます。では、明日3時に先生のうちへ行きます。<br>T：3時に伺います。   |         |
| ◆（スピーチコンテスト 表彰式 優勝者インタビュー）<br>司会者：緊張なさいましたか。<br>ミラー：とても緊張いたしました。<br>…（中略）<br>応援してくださった皆様に心から感謝いたします  | Ⅱ       |
| ●T：ミラーさんがお客さんの会社に行きます。<br>お客さんにあいさつします。<br>「初めまして。ミラーと言います。アメリカから来ました。」<br>もっと丁寧に言います。<br>「初めまして。ミラーと申します。アメリカから参りました」   |         |



同教科書で、通常一つの課の学習の最後に扱う「本文会話」では、弁論大会優勝者が司会者に答える場面で、謙譲語Ⅱを提示している。司会者が「緊張なさいましたか」と問うのに答えて、優勝者が表現主体として「はい、とても緊張いたしました。」と「Ⅱ」を使って答えている。弁論大会優勝者発表の壇上でのやりとりで、大変改まった場である。

しかし、『みんな』本冊における練習問題では、発話の主体や相手と「表示されていない」代入練習もあり、さらに「Ⅰ」「Ⅱ」の分類も区別してはいない。

### 5. 2. 2 『げんき』 20課

『げんき』は、「Ⅰ」をHumble expressions、「Ⅱ」をExtra-modest expressionsと異なる分類名称を用いて謙譲語の分類を説明している (p.188)。本文会話の一部を表5に示す。

表5 『げんきⅡ』における謙譲語ⅠおよびⅡの扱い

| 提示場面 (20課 ◆: 本文会話)  | 謙譲語の種類  |
|---|---------|
| ◆ (デパート)<br>メアリー: <電子辞書の不具合を伝える><br>店員: 少々お待ちください。今、係の者を選んでまいります。<br>店員(田中): お待たせいたしました。<br>店員(田中): 田中と申します。失礼いたしました。交換いたします。<br>申し訳ございません。<br>今同じものがございませんので、二、三週間待っていただけませんか。<br>メアリー: それはちょっと…。もうすぐ国へ帰るので、できれば返品したいんですが。<br>店員: かしこまりました。まことに申し訳ございませんでした。 | Ⅱ       |
| ◆ (道を尋ねて)<br>メアリー: 荷物が重そうですね。<br>お持ちします。  | Ⅰお(ご)する |

本文会話では2つの会話を提示している。1つ目の場面はデパートで、店員が「今、係の者を選んでまいります」「お待たせいたしました」等の「Ⅱ」を使用している。2つ目の会話は、道で高齢者に探している店への行き方を尋ねるやりとりで、会話の続きで、相手の荷物を「お持ちします」と「Ⅰ」を用いて申し出ている。「Ⅰ」の「特定形」は「うかがう」「いただく」のみ説明で提示している。

### 5. 2. 3 『JBPⅢ』 10課

『JBPⅢ』では、「Ⅰ」「Ⅱ」を区別せずhumble verbsとして、尊敬語と同じ課で導入している (表6)。「Ⅱ」については、「もうします」「おります」「いたします」「まいります」は謙譲というより丁寧さを高めるために用いる」と付記している (p.179)。

本文会話では、課長が非母語話者の支社長を伴って取引先を訪問し、先方の常務に支社長を引き合わせるというダイアログで、職位の高い者同士、また訪問先の常務と課長という職位の異なる登場人物がそれぞれ挨拶を交わす。その中で「検討しております」「拝見するのが楽

しみですね」などの表現を用いている。

表6 『JBP Ⅲ』における謙譲語ⅠおよびⅡの扱い

| 提示場面 (10課 ◆: 本文会話)  | 謙譲語の種類                 |
|---|------------------------|
| ◆ グリーン: 〈新規出店を伝える〉<br>米国本社も大変喜んでおります。<br>加藤: バレンタイン・フェア向けに、新しいパッケージのデザインを<br>けんとうしております。<br>黒田: そうですか。はいけんするのが楽しみ ですね。<br>加藤: 来月の初めに、お持ちして、見ていただこうと思っております。 | Ⅱ<br>Ⅰ 特定形<br>Ⅰ お(ご)する |

#### 5. 2. 4 『できる 初中』 1課、5課、7課、8課

『できる 初中』では、4つの課に分けて謙譲語が取り上げられている。それぞれの課での本文会話を表7に示す。1課では、留学生在がアルバイトに応募するために飲食店に電話をするという会話の中で、電話を取った店長に名前を伝えて「パクと申します」、出身地を聞かれた返答として「プサンから参りました」を提示し、「Ⅱ」を導入している。5課では、駅で電車が遅れて到着しない場面で、留学生在が「教えていただけませんか」と状況を尋ね、「Ⅰ」を導入している。7課においては、日本人宅でのホームパーティーに参加し、友人の家族と初めて対面する場面で、尊敬語も交えたやり取りの中で「Ⅰ」を提示している。8課ではお礼を伝える場面で「いただく」を導入している。

表7 『できる 初中』における謙譲語ⅠおよびⅡの扱い

| 提示場面 (◆: 本文会話/●: 練習)  | 謙譲語の種類   |
|---|----------|
| ◆ 1課 (電話で)<br>アルバイト<br>応募留学生: 私はパクと申します。<br>(面談で)<br>店 長: どちらからいらっしゃいましたか。<br>留学生: プサンから参りました。  | Ⅱ        |
| ◆ 5課 (駅で)<br>留学生: 行き方がわからないんですが、教えていただけませんか。  | Ⅰ 特定形    |
| ◆ 7課<br>(ダイニングで)<br>西川母: 料理ができましたよ。<br>ワ ン: あっ、お手伝いします。<br>西川母: ありがとう。じゃ、これをもっていってもらえませんか。  | Ⅰ お(ご)する |
| ◆ 8課 (アンナ自宅)<br>木 村: 素敵な部屋ですね。わあ、かわいいテーブル。<br>アンナ: そのテーブル、西川さんのお母さんからいただいたんですよ。<br>● A: このお料理、おいしいですね。Bさんが作ったんですか。<br>B: はい。西川さんのお母さんに作り方を教えていただきました。 | Ⅰ 特定形    |

### 5.2.5 「謙讓語Ⅰ」および「謙讓語Ⅱ」の扱いに関する結果のまとめ

研究課題1. 「敬語の指針」発表後に改訂・刊行された初級教科書において、「謙讓語Ⅰ」と「謙讓語Ⅱ」の分類はどのように扱われているか」をみたところ、教科書4種のうち『みんなⅡ』『JBPⅢ』においては、「Ⅰ」と「Ⅱ」の区別について明示的な説明を付し、異なるものとして指導する意図が示されていた。『げんきⅡ』においては、それに加えて「Ⅰ」をHumble expressions、「Ⅱ」をExtra-modest expressionsと異なる分類名称を用いて謙讓語の分類を説明している一方で、「Ⅰ」の特定形は練習や本文会話では扱わず、説明で提示するにとどめていた。

残りの1種『できる 初中』では、区別を明示せず、明示的説明もせず、語彙を限定して提示していた。「Ⅱ」は「申します」「(国から)まいりました」に限定して導入していた。

## 5.3 尊敬語のタイプによる敬意レベルの異なり

本節では、4種の教科書の会話例における尊敬語の、「特定形」「お～なる」「(ら)れる」を使用している本文中の会話例、および導入例を抜粋し、蒲谷・川口・坂本(1998)の「敬意表現を決める要素およびレベルの度合い」に基づいて、敬意表現を決める要素「表現の相手」「話題の人物」「表現の場」「題材、内容」の点から整理し【+2】～【-2】までの5段階で表した結果を報告する。稿末の表9を参照されたい。

### 5.3.1 『みんなの日本語Ⅱ』 49課

『みんなⅡ』は、『手引き』で、以下を導入例として提示している。(Tとは教師の発話のことである)

T: ここは会社です。今6時です。事務所に人に聞きます。

A: 田中さんは?

B: 田中さんは帰りましたよ。

A: そうですか。課長は?

B: 課長も帰られました。

この導入例では、職位が同等と思われる若手社員A, Bが、同僚(田中さん)を話題にしているときには敬語を使わず、「話題の人物」が課長になった時に「(ら)れる」を使うことを示している。ここでは、敬意レベルが【+1】の課長に対して、「(ら)れる」敬語が使用されている。また、社長について聞かれた若手の事務職員が、「社長はお帰りになりました」と答えるところも例示している。

「話題の人物」として、「お～なる」を社長(【+2】)、および「(ら)れる」を課長(【+1】)に対して使用し、職位の異なる相手を想定し、敬意のレベルが異なることを表している。ただ

し本冊においては、練習問題において、「表現主体」「表現の相手」の記載は見られない。

### 5. 3. 2 『げんきⅡ』 19課

『げんきⅡ』は、「特定形」および「お～なる」のみを取り上げ、「(ら)れる」を扱っていない。本文会話では、若手社員が直属の上司（部長）を空港で出迎え、レストランに行き、自宅まで送る、という場면을提示している。以下は本文会話の冒頭である。

#### I (空港)

部長：迎えに来てくれてありがとう。(中略)

たけし：じゃあ、おつかれになったでしょう。

部長：大丈夫だけど、ちょっとおなかがすいてるんだ。

たけし：じゃあ、何か召し上がってから、お帰りになりますか。

若手社員（たけし）にとって、部長は敬意表現のレベルが【+2】の相手であろう。会話の続きで、上司の妻を話題の人物として敬語を使う場面も設けられている。「表現の相手」として【+2】と考えられる対象に、たけしは「奥様はもうお休みになっているでしょうから」と「お～なる」を使用している。『げんきⅡ』の本文会話は、敬意の対象は【+2】の登場人物のみで構成されている。

### 5. 3. 3 『JBPⅢ』 10課、11課

『JBPⅢ』は、尊敬語のタイプによる敬意のレベルの異なりを明示的に扱っている。「(ら)れる」と「特定形」・「お～なる」の使い分けには説明を付してあり、「(ら)れる」はオフィスや日常場面でよく使う敬語であり、「特定形」・「お～なる」は受付やサービス従事者の敬語である」(p.200)と説明を付記している（原文は英語である）。

「表現の相手」および「表現の場」も、「特定形」・「お～なる」については、上記5. 2. 3で述べた謙譲語が使用される課の同じ場面で提示されている。課長が取引先を訪問し、常務に対して挨拶するという、場面も相手も【+2】、あるいは【+1～2】レベルの要素を設定し会話を構成している。一方で、「(ら)れる」については、11課において、「表現主体」のオフィスで若手社員同士が加藤課長の動向について確認し、伝言を残すという以下のような会話を提示している。

#### 11課 本文会話

鈴木：あれ、加藤さんは？

加藤の秘書：先ほど出かけられましたが、何か？

「表現主体」の職場という日常的なレベル【0】の場で、「表現主体」とは年齢差の小さい上司を話題にしており、「話題の人物」を【+1】レベルとして会話を展開している。

#### 5. 3. 4 『できる 初中』1課、7課、8課、9課

『できる 初中』では、1課で、アルバイト応募の電話をして面接に行くという状況で、飲食店店長とのやり取りにおいて「いらっしゃいますか」を使い、また店長も初対面の状況で、相手はレベルとしては【0】だが、「いらっしゃいましたか」を使っている。

7課では、日本人の友人宅を訪問し、家族と初対面で会話をする中で、外国人の主人公が友人の両親に「特定形」「お～なる」の尊敬語で質問を受けたり、質問をしたりする。同時に、友人の姉に対しては、「(ら)れる」を使って質問をしている。「表現の相手」のレベルは、友人の両親は【+2】、友人の姉は【+1】と想定されている。

7課での掲載会話を示す。

(西川家訪問)

西川父：今は何をなさっているんですか。

アンナ：学生です。日本語学校で日本語を勉強しています。

お父さんは、お休みの日、どんなことをなさっているんですか。

西川父：私は本を読むのが好きで、本を読んだり、図書館へ行ったりしています。

アンナ：そうなんですか。私も好きです。どんな本をお読みになるんですか。

西川父：ミステリーが多いですね。

アンナ：そうですか。

パク：あ、テニスのラケットがありますね。テニスをされるんですか。

西川姉：はい、高校の時からずっと続けています。

9課では、アルバイト先で「お決まりになりましたら…」「お待ちください」を使う場面を提示している。「表現の相手」「行動展開」とも【+2】として、「お～なる」敬語を使用している。

#### 5. 3. 5 尊敬語のタイプによる敬意レベルの異なりに関する結果のまとめ

研究課題2「敬語の指針」発表後に改訂・刊行された初級教科書において、尊敬語の「特定形」および「お～なる」と、「(ら)れる」の敬意のレベルに異なりがあることは、どのように扱われているか。」の結果は以下のとおりである。

教科書4種のうちの2種、『みんなⅡ』および『JPB Ⅲ』では、敬意のレベルが異なることを「表現の相手」「話題の人物」に異なりを持たせて提示していた。『JPB Ⅲ』では、「(ら)

れる」敬語はより日常的に使用するとの説明を付しており、敬語のタイプによる敬意レベルの異なりについて、4種の中では最も厳密に扱っていた。『できる 初中』は、会話例を見ると「特定形」・「お～なる」と「(ら)れる」の「表現の相手」は世代が異なり、敬意表現と相手のレベルは合致しており、実生活で見られるような会話を構成している。しかし、『できる 初中』では、敬意のレベルに関する明示的な説明は見られなかった。『げんきⅡ』では、「(ら)れる」は扱われていなかった。

#### 5.4 結果のまとめ

「敬語の指針」を反映しているか」を探るために2007年2月以降刊行された初級日本語教科書を調査したところ、謙譲語の2分類（研究課題1）については、3種の教科書で明示的に、1種では限られた語彙を取り上げる形で、反映されていた。尊敬語の敬意レベルによる使い分け（研究課題2）については、2種の教科書で明示的に、1種の教科書では例示のみで、「(ら)れる」敬語のレベルが異なることが扱われていた。1種においては学習項目として扱われていなかった。

この結果を表8にまとめる。

表8 敬語の指針を反映しているか：結果のまとめ

|          | 謙譲語の2分類     | 尊敬語の敬意レベルによる使い分け |
|----------|-------------|------------------|
| 『みんなⅡ』   | ○           | ○                |
| 『げんきⅡ』   | ○           | ×                |
| 『JBPⅢ』   | ○           | ○                |
| 『できる 初中』 | △（2語を表現として） | ○（明示的な説明なし）      |

## 6. 考察

### 6.1 謙譲語の2分類の扱い

本調査の結果、4種の初級日本語教科書のうち、3種において、謙譲語の「Ⅰ」「Ⅱ」の区別を明示的に扱っていたことが明らかになった。先行研究で見たように、国語教育において、義務教育では謙譲語の2分類はまだ取り上げられておらず（永田, 2019）、大学生対象の表現教育の教科書においても扱われていないものが見受けられる（野呂, 2016）が、初級日本語教科書は、「敬語の指針」に沿うものが確かに見受けられることが分かった。

指導については、謙譲語の指導というと「先生のお荷物をお持ちする」「先生の資料を拝見する」のような「特定形」「お～する」の練習が想起されるが、「Ⅱ」は異なる形で位置づけられていたことが確認された。しかし、「Ⅱ」を扱うとはいえ、限られた語彙を限られた場面で表現として指導するにとどまるものも見受けられた。

「Ⅱ」のうち、「申す」についてはすべての教科書で、「参る」については『げんきⅡ』以外に共通して、「(名前)と申します」「(お国)から参りました」の形で学習者を表現主体とする自己紹介の場面で導入されていた。これらの表現を指導することは学習者の自己表現を促し、初級における欠かせない敬語指導であることが確認できた。ただし、「Ⅱ」に属する「いたします」「～しております」「～と存じます」をどのように扱うかは、教科書によって異なっていた。これらを学習項目に含めている『みんなⅡ』では、本文会話で弁論大会優勝者がインタビューに答えて「緊張いたしました」「皆様に感謝いたします」を提示している。本文会話は、「いたします」の使用に関し、敬意のレベルや場面を考えても適切な例と言えるが、練習問題では、表現主体、相手、場面等が示されていないものも多く、教師の補足説明が「Ⅱ」の指導に必須であろうと思われる。

『げんきⅡ』が謙讓語「Ⅱ」について、デパートの店員を「表現主体」とし、学習者が「表現の相手」となる状況で使用例を提示していたことは他の3種と異なる特色である。「デパート」は日常的な場面設定で、学習者にとって身近な場面での「Ⅱ」の使用でありながら、学習者を「表現主体」とせず「表現の相手」である場面を提示していたのは『げんきⅡ』のみであった。学習者にとっては、謙讓語「Ⅱ」を発話する場面よりも、サービスを受ける場面で聞く側になる機会の方がずっと多いはずだということに気づかされる。謙讓語「Ⅱ」の指導には、日常的な、サービスを受ける側で、よく使われる表現を理解することから始めるほうが、学習者に発話させる非日常的な場面を設定するより有効ではないかと思われる。

謙讓語「Ⅰ」の「お～する」については、3種の教科書すべてにおいて、「お荷物お持ちします」のように、表現主体から表現の相手への援助の提供の場面が提示され、「お～する」の練習問題が付されていた。しかし、実生活において初級学習者は、自分から敬意の対象となる相手にこのような働きかけを行う場面を高い頻度で経験するだろうか。『げんき』の教師用指導書では、「Ⅰ」は「尊敬語に比べて使用する機会が少ない(p.108)」として、語彙を限定する理由を説明しているが、妥当な指摘と思われる。本稿の「はじめに」で紹介した「私は川でお泳ぎしています」のような誤りを誘導しないためにも、「Ⅰ」の「お～する」の練習に力を入れる指導は、再考の余地があるように思われる。

## 6. 2 尊敬語の使い分け

尊敬語の「(ら)れる」の扱いは、その敬意のレベルの差異を明示的に示して扱う教科書が『みんなⅡ』および『JBPⅢ』、差異を明示せずに扱うものが『できる 初中』、学習項目としないものが『げんきⅡ』と分かれた。学習項目としている教科書では、敬意のレベルの差異は、「表現の相手」の職位、および「表現の場」によって「特定形」「お～なる」は【+2】、「(ら)れる」は【+1】と区別されていた。「(ら)れる」を学習する教科書は、日本の社会での使用の多さを考慮しており、「(ら)れる」を省いている『げんきⅡ』は、学習者が発話する際に、この表現を選択する必然は高くないと判断しているのではないだろうか。この点に、

日本語学における尊敬語としての「(ら)れる」の位置づけの議論が反映されているように思われる。

「(ら)れる」を学習項目としている『みんなⅡ』『JBPⅢ』『できる 初中』は、第二言語環境である日本での日本語学習を想定していると考えられる。その場合、周囲で「(ら)れる」敬語が使用されており、学習者が聞き取る必要があると考えられるだろう。また、とくにビジネス関係者を学習者として想定している『JBPⅢ』は、職位によって尊敬語を変えて使用していることに焦点を当てているように思われる。職場で、職位の異なる「表現の相手」に合わせて学習者自身が敬語を使い分けることも必要な訓練と判断し、学習項目とされていると考えられる。

『げんきⅡ』が「(ら)れる」を敬語として扱わないことについて、明示的な説明は見当たらない。理由を推測すると、『げんきⅡ』が非漢字圏での日本語教育を想定している教科書であることに思い及ぶ。外国語環境においては、表現の相手の職位を考慮して敬語の使い分ける必然性や、丁寧語「です、ます」では不十分となり軽い敬語で接する必然のある状況は想定しにくいと思われる。外国語環境にあっては、「(ら)れる」敬語の使用を耳にする機会も少ないことも想像に難くない。敬語を使用するなら、「お/ご～なる」と「特定形」であれば問題はないだろうという考え方にも、妥当性が見いだせる。

あるいは、文法項目として「受身」を敬語の次の課で学習することになっており、「(ら)れる」の活用が未習であることが理由ではないかと想像される。

先行研究で述べた渡邊(1994)が、当時の「文化初級日本語」で「(ら)れる」を尊敬語として学習項目に含めていなかったことに触れていた。「(ら)れる」を尊敬語として扱うかどうかは、同じ活用をする「受身」との学習順序、その必然性など、または「(ら)れる」を敬語と扱うことへの違和感など、教材作成側の意向が反映される部分であるかもしれない。

『できる 初中』は達成したい行動目標(Can-Do Statement)に沿って学習する文法を配列する、Can-Doシラバスに基いており、構造シラバスに基づくほかの3種と異なっている。「いらっしゃいますか」「お決まりでしょうか」「お待ちください」等は表現として場面別の課で扱い、訪問先での会話の中で「特定形」「お～なる」「(ら)れる」が提示される。ただし、いずれも初対面の会話に限定して指導し、語彙の数は絞られている。敬語のルールの学習に比重を置くのではなく、この教科書のように語彙を限定し、真正性のある場面を設定し練習させることも、敬語指導の一つのあり方であるようにも思われる。

## 7. おわりに

本稿では「敬語の指針」における謙讓語の2分類、および尊敬語の使い分けが、日本語初級教科書に反映されているかを見た。その結果、謙讓語の2分類については、分析対象としたすべての初級教科書で扱われ、3種では明示的に区別がなされていることで「敬語の指針が反映



されている」と結論付けられ、尊敬語の使い分けについては、3種では扱われているが、やや扱いにばらつきがあり、教科書によって異なることが明らかになった。

しかしながら、4種と限られた数の教科書のみを検討した結果であるので、今後は他の教科書も検討する必要があるだろう。

今回、Can-Doシラバスに基づいた『できる 初中』を対象としたことで、敬語にかかわる項目の提出順や語彙の数など、他の文法構造シラバスの教科書と異なる点があることがわかった。今後は、今回分析から外したが、Can-Doシラバスに基づく『まるごと 日本のことばと文化』シリーズをはじめとして、様々なシラバスに基づく教科書、および中級以上の教科書における敬語の扱いも調査することを課題としたい。

### 【分析対象教科書】

- 国際日本語普及協会 (AJALT) (2007), *Japanese for Busy People III Revised 3rd Ed.*, 講談社インターナショナル
- 坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 (2011), *GENKI: An Integrated Course in Elementary Japanese II*, 2nd ed. ジャパンタイムス
- 坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子 (2012) 『げんき第2版 教師用指導書』 ジャパンタイムス
- スリーエーネットワーク (2013) 『みんなの日本語初級 II』 第2版, スリーエーネットワーク
- スリーエーネットワーク (2013) 『みんなの日本語初級 II 教え方の手引き』 第2版, スリーエーネットワーク
- できる日本語教材開発プロジェクト (2012) 『できる日本語 初中級 本冊』, アルク

### 【参考文献】

- 井上史雄(2017) 『新・敬語論』 NHK出版新書
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵(1998) 『敬語表現』 大修館書店
- 川口義一 (1986) 「研究ノート--日本語初級教科書における敬語の扱われかた」『国語学研究与資料』 9, 1-5.
- 川口義一 (2009) 「待遇表現の教育」 *Journal CAJLE*, Vol. 10, 1-24.
- 菊池康人 (1997) 『敬語再入門』 講談社学術文庫
- 熊井浩子 (1986) 「日本語初級教科書における敬語的要素の分析と敬語分類に関する一考察」『日本語学校論集』 13, 東京外国語大学, 49-64.
- 郡千寿子 (2008) 「文化審議会の答申と敬語教育」『弘前大学教育学部紀要』 1-7.
- 国際交流基金 (2015) 『まるごと 日本のことばと文化 初中級』 三修社
- 白石明彦 (2007.2.5) 「敬語5分類、影響は? : 文化審議会「指針」『朝日新聞』朝刊 (p.3)
- 永田里美 (2019) 「国語科教育における敬語指導の課題: 次期学習指導要領の「敬意と正しさ」を見据えて」『明星大学研究紀要--教育学部』 9, 29-42.
- 新田町義尚 (2018) 「ビジネス敬語における新しい判断基準について (4) -- 「なる」から「なられる」への二重敬語型の派生と「-are」接尾辞について (上)」『大阪経大論集』 69 (1), 59-89.
- 野口恵子 (2004) 『かなり気がかりな日本語』 集英社新書
- 野呂健一 (2016) 「日本語表現教科書から見る敬語指導の問題点」『高田短期大学キャリア研究センタ

—紀要・年報』2, 33-40.

文化審議会（2007）「敬語の指針」（文化審議会答申）<[http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/sokai/sokai\\_6/pdf/keigo\\_tousin.pdf](http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/sokai/sokai_6/pdf/keigo_tousin.pdf)>（2020年9月10日）

渡邊裕子（1994）「日本語初級教科書における敬語の扱いについての一考察」『学校教育研究』6, 兵庫教育大学, 15-23.

（令和2年10月12日受理）

稿末 表9 対象教科書における尊敬語の提示場面および要素のレベル

| 教科書<br>導入課  | 提示場面 (◆: 本文会話 / ●: 『手引き』・練習)   | 蒲谷他 (1998) に基づく分類 【敬意のレベル】 |                 |                  |                   |
|---|--|----------------------------|-----------------|------------------|-------------------|
|   |  | 尊敬語の種類                     | 表現主体<br>→表現の相手  | 話題の人物            | 表現の場              |
| みんな<br>II<br>49課  | ●<br>T: ○○ (本の題名) はとてもおもしろいです。<br>友だちに質問します。<br>「○○の本はもう読みましたか。」<br>先生に質問します。<br>「先生, ○○の本はもう読まれましたか。」                                       | (ら)れる                      | 学生→先生<br>【+1~2】 |                  | 学校【0】             |
|   | ●<br>ここは会社です。今6時です。<br>事務所の人に聞きます。<br>A: 田中さんは?<br>B: 田中さんは帰りましたよ。<br>A: そうですか。課長は?<br>B: 課長も帰られました。   |                            |                 | 課長【+1】           | 職場【0】             |
|   | ●<br>A: 社員 / B: 事務所の人<br>A: 課長は帰られましたか。<br>B: はい、課長はお帰りになりました。<br>A: 社長は?<br>B: 社長もお帰りになりました。  | お(ご)<br>なる                 | 社員<br>→社員【0】    | 社長【+2】<br>課長【+1】 | 職場【0】             |
|   | ●<br>T: 明日パーティーがあります。先生に来るかどうか聞いてください。<br>S: 先生、明日パーティーに来られますか。<br>T: いいですね。でも、もっと丁寧な言い方は?<br>S: 先生、明日パーティーにお来...?<br>T: 明日のパーティーにいらっしゃいますか。 | 特定形                        | 学生→先生<br>【+1~2】 |                  | 学校【0】             |
|   | ●<br>私は明日中国へ出張します。部長はアメリカへ出張されます。もっと丁寧な言い方があります。部長はアメリカへ出張なさいます。   |                            | 社員→<br>(記載なし)   | 部長<br>【+1~2】     | 職場【0】             |
| ◆<br>先生: ひまわり小学校です。<br>クララ: おはようございます。5年2組のハンス・シュミットの母ですが、伊藤先生はいらっしゃいますか。 |  | 児童の母<br>→小学校教員<br>【+1~2】   | 担任教員<br>【+1~2】  | 自宅【0】            |                   |
| げんき<br>II<br>19課  | ◆ I (空港)<br>部長: 迎えに来てくれてありがとう。(中略)<br>たけし: じゃあ、おつかれになったでしょう。<br>部長: 大丈夫だけど、ちょっとおなかですいてるんだ。<br>たけし: じゃあ、何か召し上がってから、お帰りになりますか。                 | 特定形                        | 若手社員<br>→部長【+2】 |                  | 空港【0】             |
|   | II (レストランの会話)<br>ウェイトレス: おタバコをお吸いになりますか。<br>部長: いいえ。<br>ウェイトレス: お決まりになりましたらお呼びください。  | お(ご)<br>なる                 | 若手社員<br>→部長【+2】 | 部長の妻<br>【+2】     | 飲食店【0】<br>タクシー【0】 |
|   | III (タクシー車内)<br>部長: ちょっとうちに寄らない?<br>たけし: いえ、もう遅いし、奥様もお休みになっているでしょうから。  |                            | 飲食店店員<br>→客【+2】 |                  |                   |

稿末 表9 対象教科書における尊敬語の提示場面および要素のレベル (続き)

| 教科書<br>導入課                               | 提示場面 (◆: 本文会話/●: 『手引き』・練習)  | 蒲谷他 (1998) に基づく分類 【敬意のレベル】 |  |                             |             |  |
|--|---|----------------------------|--|-----------------------------|-------------|--|
|  |   | 尊敬語の種類                     | 表現主体<br>→表現の相手   | 話題の人物                       | 表現の場        |  |
| JBP III<br>Lesson<br>10<br>11            | ●<br>A (社外の人): ミルズさんは何時ごろお戻りになりますか。<br>B (社内の人): 5時に戻る予定です。   | お(ご)<br>なる                 | 取引先社員<br>→社員 【+1】  | 取引先<br>管理職<br>【+2】          | 職場 【0】      |  |
|  | ◆<br>鈴木: あれ、加藤さんは?<br>加藤の秘書: 先ほど出かけられましたが、何か?   | (ら)れる                      | 社員→社員<br>【0】<br>(課長秘書)                                   | 課長 【+1】                     | 職場 【0】      |  |
| できる<br>初中級<br><br>1課<br>7課<br>8課<br>9課   | ◆<br>(電話で)<br>アルバイト応募留学生: 田中さんはいらっしゃいますか。<br><br>(面談で)<br>飲食店店長: どちらからいらっしゃいましたか。<br>留学生: プサンから参りました。   | 特定形                        | 若手社員<br>→部長 【+2】   |                             | 空港 【0】      |  |
|  | ◆<br>(西川家訪問)<br>西川父: 今は何をなさっているんですか。<br>アンナ: 学生です。日本語学校で日本語を勉強しています。お父さんは、お休みの日、どんなことをなさっているんですか。<br>西川父: 私は本を読むのが好きで、本を読んだり、図書館へ行ったりしています。<br>アンナ: そうなんですか。私も好きです。どんな本をお読みになるんですか。<br>西川父: ミステリーが多いですね。<br>アンナ: そうですか。 | お(ご)<br>なる<br><br>(ら)れる    | 学生→友人の<br>父 【+2】<br><br>学生→友人の<br>姉 【+1】                 |                             | 友人宅<br>【+1】 |  |
|  | パ ク: あ、テニスのラケットがありますね。<br>テニスをされるんですか。<br>西川姉: はい、高校の時からずっと続けています。  |                            |  |                             |             |  |
|  | ●<br>B: このTシャツは木村さんがくれました。<br>A: そうですか。よかったですね。<br><br>A: この料理、おいしいですね。Bさんが作ったんですか。<br>B: はい。西川さんのお母さんに作り方を教えていただきました。<br><br>A: Bさん、この間は日本の料理の作り方を教えてくださってありがとうございます。<br>B: いいえ、どういたしまして。                              | 特定形                        | 学生→学生<br>【0】<br>学生→学生<br>【0】<br>学生→学生<br>(年長の友人)<br>【+1】 | 年長者<br>【+1】<br>友人の母<br>【+2】 | 自宅 【0】      |  |
| ●<br>(アルバイト先)<br>A: 少々お待ちください。<br>B: はい。 | お(ご)<br>なる  | 飲食店店員<br>→客 【+2】           |  | 飲食店 【0】                     |             |  |